

自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、11月21日（土）～11月23日（月）の2泊3日の日程で、教育事業「自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業」を開催しました。この事業は、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を育成するものです。参加者は、小学校教諭、国公立青少年教育施設職員、地域のNPOや企業などの体験活動実施団体38名が参加しました。

初めに、主任講師からNEALリーダー講習が、「自然体験活動の指導を初めて行う人」を対象としていることが確認されました。また、講習終了時には全員がNEALリーダーとして指導できる知識とスキルを身に付けられることが説明されました。さらに、1日目から3日目までの設定されたねらいを確認することで、3日間の見通しを持って講習がスタートしました。

【1日目】ねらい：自然体験活動のそもそもについて理解する日

ガイダンスにおいて、NEALリーダーとは、①プログラムのねらいを理解する②基礎的な指導にあたる③安全に留意する役割があることが説明されました。講義では「青少年教育における体験活動」と「対象者理解」について学びました。青少年教育を学校以外で行われる教育活動とし、青少年が今まで自然に体験できた活動の機会が少なくなっていることが確認されました。また、発達心理学の視点から、青少年と直接かかわる際に、発達段階や特性に応じたかかわりを持つことの重要性を学びました。



他の参加者と一緒に
体験活動の必要性を考えます



子供の行動の「どうして？」を
発達心理学の視点で考えます

【2日目】ねらい：自然体験活動（主に技術）の基本を理解する日

「自然体験活動の特質」では、「見方を変える」ことを意識し、当たり前にある自然が体験アクティビティの素材となることを学びました。「自然体験活動の技術」では、火と刃物の安全な指導の仕方について体験しました。ごはんを炊くのに空き缶、竹、鍋などを使い「飯盒だけではない」自然体験活動の技術を学びました。「自然体験活動の指導」では、指導者として人の前に立つときの心構えを、活動を通して学びました。



ただの「落ち葉」を
仲間づくりの「ツール」に



「竹で炊きごはん」づくりで
指導の幅を広げます



「たずねる こたえる みる」
対人エクササイズ

【3日目】

ねらい：自然体験活動の全容を理解し、これからの指導者としての一步を踏み出す日

「自然体験活動の安全管理」では、心構えやリスクマネジメントについて、エクササイズで意見を交わしながら学びました。また講習の最後には、3日間を通してふりかえる時間を設け、各自がNEALリーダーとしての必要な役割について考えをまとめました。



リスクに対する考え方の違いを
他の参加者と共有します



指導者として一步を踏み出す
その前の準備をします

アンケートの内容をまとめると

「様々な年代や業種の参加者と、個性的な講師の方々とお話しを通して、新たな視点で指導者の役割について学ぶことができた。」

「座学だけでなく、ディスカッションをすることで考え方をより深められた。」

「プログラム（講義）の順番も意図的にデザインされており、腑に落ちた感覚でした。」
といった感想がありました。

（文責・山田）